



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

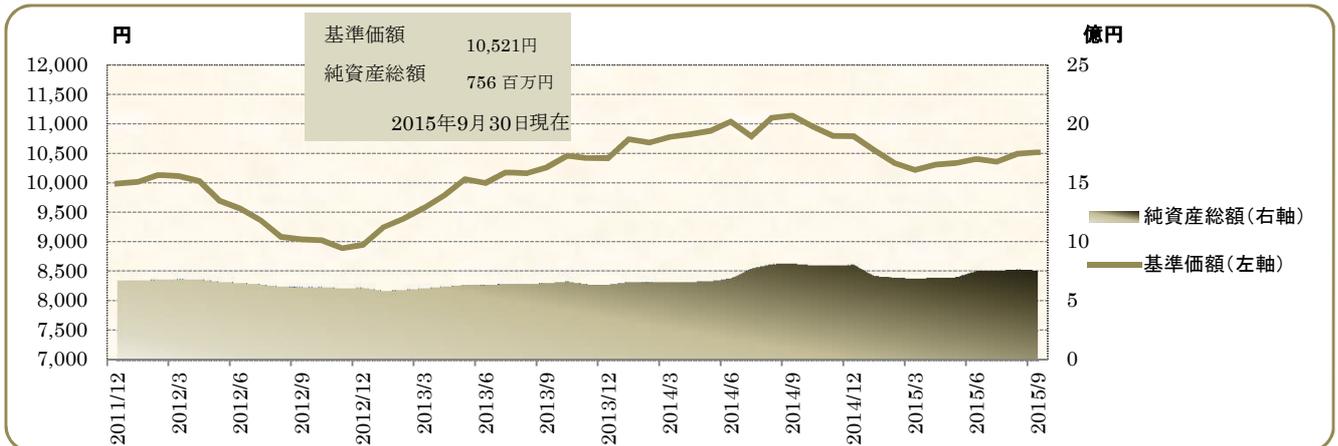
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2015年9月30日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

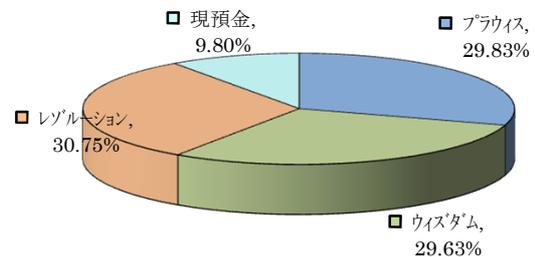
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%				-2.52%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2015年9月30日	
基準価額:	10,521円	対前月比 30円
純資産総額:	756百万円	対前月比 -10.4百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	1.10%
基準価額騰落率	6ヶ月	2.94%
設定来	ファンド	5.21%
基準価額騰落率	TOPIX	95.03%
	日経平均	106.96%

投資対象ファンドへの資産配分 (2015年9月30日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%				0.64%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%				0.67%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%				1.34%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%

* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

9月の株式相場は、日経平均で7.95%下落の17,388.15円、TOPIXで8.19%下落の1,411.16ptとなりました。中国や新興国など海外の景気に対する懸念が強まり、大幅下落となりました。

上旬は、中国製造業PMIが市場予想を下回ると中国景気の先行きに対する不安感が高まり、急落して始まりました。景気ウォッチャー調査での国内景況感の悪化や、円高進行も重荷となりました。その後、中国の経済対策への期待等から海外市場が好転すると、急速に買い戻されました。9日には、約21年ぶりとなる日経平均1,343円高を記録しました。

中旬は、FOMCなどの重要イベントを前に様子見の雰囲気が広がり、もみ合いとなりました。17日のFOMCで利上げが見送られたものの、今後の利上げ時期に対する不透明感が残ったことなどから、相場のサポート材料にはなりません。

下旬は、中国の景気指数が悪化したことや独VWの不正問題などが投資家の心理を悪化させ、下落が続きました。29日には、日経平均が今年1月以来となる17,000円を下回る局面もありました。

需給面では、海外投資家が9月第3週までの3週間で2.3兆円もの大幅な売り越しとなりました。一方で個人投資家や信託銀行、事業法人、投資信託など国内投資家が買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、ゴム製品、小売業、水産・農林業、金属製品、空運業が上位となり、鉄鋼、保険業、鉱業、情報通信、海運業が下位となりました。新興国景気に対する懸念から資源や素材関連株などが売られた他、安倍首相が料金引き下げの検討を指示したと報じられた情報通信株も大きく下落しました。

ファクター面では、9月前半はPERやPBRなどのバリュエーションファクターが好調だったものの、後半は一転してモメンタムファクターが強く効く相場となりました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

<ファンド運用状況>

9月の運用成績はJPYクラスで+0.48%となりました。9月上旬はロングのウェイトが高い好業績の内需銘柄に利益確定売りが出たことから、パフォーマンスは悪化しました。しかし、中旬以降は業績の不透明感が強い資源、中国関連株が下落したことや、好業績の内需銘柄のパフォーマンスが相対的に改善したこともあり、プラスの運用成績を確保することが出来ました。

セクター別の損益は輸送用機器、食品、その他製品でプラスとなり、化学、小売り、サービスセクターでマイナスとなりました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

10月の株式市場は中国経済に対する懸念から、引き続き不安定な値動きが続く相場展開を想定します。株価の下落によりバリュエーション面での割安感はあるものの、外需産業を中心に今後の企業業績に対する不透明感が強まっていることから、上値は限定的と考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウィズダム】

<ファンド運用状況>

9月の運用成績はJPY-Fクラスで-0.95%でした。株式市場が大幅な下落となる中、これまでパフォーマンスを牽引してきた銘柄が相対的にアンダーパフォームしたことでマイナスの収益となりました。セクターでは医薬品、通信の銘柄選択がマイナスとなりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションでセブン&アイHD (3382)、SCSK (9719)、ショートポジションでは野村ホールディングス (8604)、太陽日酸 (4091)がプラス収益に寄与しました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

今月の株式市場は、一旦はリバウンドが期待されるものの、世界的な景気減速が懸念される中、国内企業の上半期決算開示の内容や日銀の追加金融緩和の動向によって上下に大きく変動する相場展開を予想します。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

<ファンド運用状況>

9月の株式市場は、景気敏感株の下落が続くなかで、ディフェンシブ銘柄や内需グロース銘柄などが優位となり、全体として小型株がアウトパフォームしました。

ポートフォリオは、引き続き、建設、小売などのセクター（個別銘柄の判断から結果的に電機、機械）をオーバーウェイト、金融を新規に、情報サービスを従来以上にオーバーウェイトとしました。引き続き、定性評価される銘柄の高ウェイトを維持し、ディフェンシブ（ネット）ショートの状態から、やや景気敏感ショートの方へシフトしました。先月に続き、小型株ベット（大型ショート）ながら、やや大型株ショートを解消し、個別株ショートはTOPIX先物で代替させました（結果としてTOPIXウェイトが高水準に）。

業績拡大が持続するセプターニ (4293) や業績のボトムを通過したクラリオン (6796) などのロング銘柄、業績モメンタム低下に伴いバリュエーションの低下する銘柄のショートがプラスに寄与しました。一方、電機など景気敏感銘柄のロングがマイナス寄与しました。

全体として、個別要因による業績拡大が可能なロングを中心に収益を積み上げ、パフォーマンスの獲得に至りました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

売買の対象が一部銘柄に集中している傾向や低成長高バリュエーション銘柄の存在などに大きな変化はありませんが、当面の収益確保が可能な銘柄への信頼感が高く、ファンダメンタルによる選別が見られます。

小型株については、業種内、業種間のバリュエーション格差が目立ちますが、多くは業績格差を反映したものとなっています。

外部環境の不透明感が増し、株価変動の大きな状況が見込まれますが、基本的なセンチメント（割安放置）は変わらないと思われ、ポートフォリオの大きなキャラクター変更は予定しません。

テクノロジーセクターで足元の業績悪化が見られるため、上期決算通過までリバウンドは狙わず、内需成長株の高ウェイトを維持します。相場動向によらず、業績好調銘柄のバリュエーション維持は可能であると判断します。

業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大可能な割安銘柄の組入を行います。成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号
	加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/
	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号
	加入協会:日本証券業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**